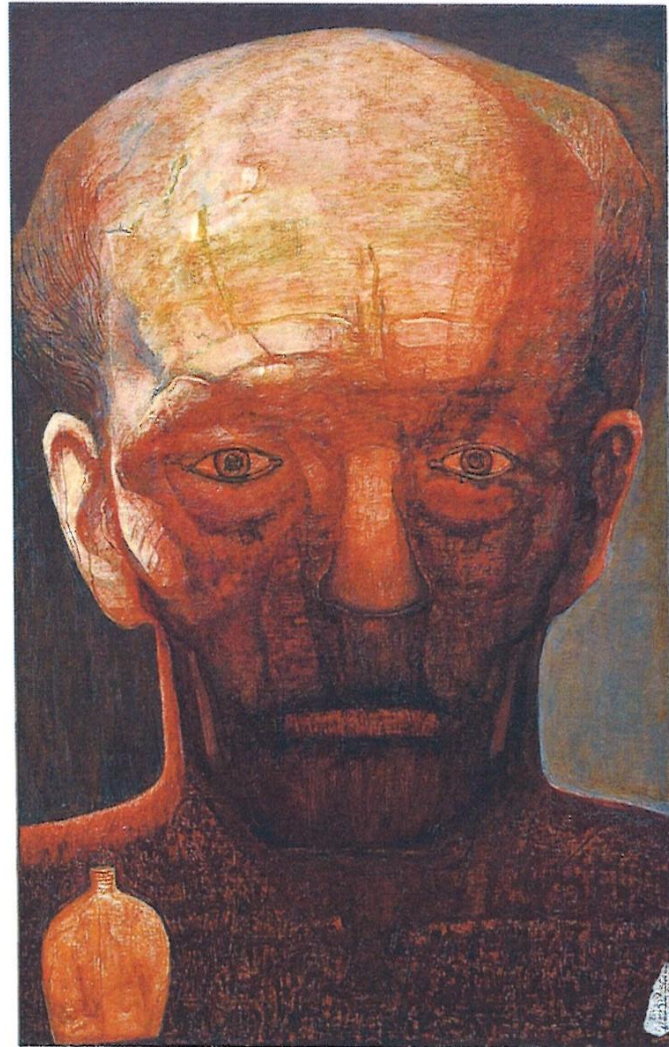


洋画

「父の像(兵士)」

川村 圭三(高知市)



光る頭頂部の異彩

てる浪したが、かなわなかった。

この頭頂部はいささか大き過ぎるのではな
いだろうか。どこか厳
かなふうな光も照らし
て、さらに強調する。
洋画部門で異彩を放つ
作品の一つだ。

描くきっかけは、父

の遺品に一冊の手帳を
見つけたことだった。
走り書きのメモ帳だっ
たが、「上海」「無錫」と

いう中国の地名があっ
た。父は高知に本拠を
置く歩兵44連隊に所属
して、中国での戦争を
経験していた。
しかし戦争のことは
ほとんど語ることなく
亡くなった。

すけど…。でもそれは
若い一時期だけで、父
の戦後は長かった」
頭頂部の明るさと目
鼻口の暗さ。戦中の暗
さと戦後の明るさとい
うコントラストでもあ
る。
初の特選を知らせる

「一兵卒として死に
ものぐるいで大陸を転
戦して、命からがらも
た。高校では美術部
で、東京芸大を目指し

かわむら・けいぞう
1951年高知市生
まれ。美術団体「グルー
プ八月」代表。初特選。